

幸手市立西中学校 学力保障グランドデザイン

幸手市の到達指針

【全国学調】

●平均正答率

【埼玉県学調】

●学習方略・非認知能力の平均値

●学力が伸びた児童生徒の割合

本校の学力の現状と考察

現状	考察
①全国学調 (平均正答率) 特に数学に課題が見られる。	数学において二極化が生じており、より一層個に応じた丁寧な指導が必要である。適用問題の時間を必ず設定する授業を展開していく必要がある。
②埼玉県学調 ・学習方略・非認知能力県平均越え項目が多い。 ・学力の伸び 特に数学に課題が見られる。また中2から中3の学力の伸びがやや小さい。	支持的風土が醸成された学級経営により、生徒の学習方略・非認知能力が良好な結果になったと考えられる。
③幸手市統一学力調査 (平均正答率) 英・社・理が全ての学年で全国未満となっている。	自分の考えをもたせないまま、ペアやグループ活動へ入ってしまう授業が散見している。根拠を明確にして、自分の考えをもつ場を設定する必要がある。

「寄り添い、支えて、学び合う」

— 生徒の心に寄り添う温かい学校

挑戦する生徒を後押しし、安心して生活できる学校 生徒も教職員も共に学び合う学校 —

学校全体での取組



✿ 単元テスト・学力テスト実施

国、数、社、理、英については、単元終了後にテストを実施、生徒が単元ごとに学習内容の理解度が振り返られるように支援します。また、各学年ともに学力テストを学期に一回のペースで実施し、単元テストとの関連を図り、これまでに学習した内容の定着を図り、評価、評定の材料とします。

✿ 幸手市リーディングDXスクール事業の推進

文部科学省の生成AI活用パイロット校として、情報端末を効果的に活用し、自学自習を目指した個別最適化学びと協働的な学びの実現を図ります。

✿ 生徒会活動の充実

月に一度“西中・地域輝き隊”での自主清掃活動や挨拶運動、今年度より加盟した青少年赤十字活動を通して、人権尊重の精神や奉仕の心を育てます。

落ち着いた学級づくり



✿ 生徒指導・教育相談体制の充実

生徒との信頼関係を構築するため、全教職員が組織的に生徒と関わり、生徒の「よさ」を見い出すことに努め、生徒の健全な成長を支援します。また、「よさ」を認めるため、校内善行賞「善泉賞」を設けて「よさ」を称賛し、生徒の自己肯定感や自己有用感を醸成します。

✿ SSR、さわやか相談室との連携

学習や生活等に困り感のある生徒を支援するために、適応指導教室、さわやか相談室との連携を強化し、校内にスペシャルサポートルームを設置し、困り感のある生徒が個別に学習したり、心を落ち着かせたりできる環境を整備します。

✿ しっとりとした学び舎の継承

温かい人間関係や生徒と教師の信頼関係を高め、生徒が学び合い、温かく聴き合うことで落ち着いた潤いのある学び舎の継承に努めます。

学びを深める授業づくり



✿ 「学び合い」の授業づくり

3、4人グループでの「学び合い」を積極的に実践し、教師主体の授業から、生徒の自学自習や学び合う授業をモットーに取り組みます。生徒同士の聴き合う関係や他の生徒の学習が見える環境を重視し、お互いに高め合える人間関係を構築していきます。

✿ 幸手スタンダード授業5 with GIGAの徹底

導入から終末までを見通し、幸手スタンダード授業5に沿った授業展開をベースに個別最適化された学び方の定着を図ります。

✿ 各教科等の「見方・考え方」の重視

「何を学ぶか」だけでなく「何のために学ぶか」といった学ぶ目的を生徒に考えさせ、学習のゴールまでを見通した魅力的な授業を展開します。

学校間連携・家庭連携



✿ メディア利用の削減、家庭学習の増加

スマートフォン等のメディアの長時間利用を削減するため定期的な調査を行い、生徒に課題意識を持たせます。スマートフォンの長時間利用が家庭学習の時間の不足も大きな影響を与えていることを認識させ、改善を図ります。

✿ 3年間を通したキャリア学習・進路学習

道徳科や学級活動で継続的な生き方学習を行います。また、進路学習会や上級学校説明会、マナー講座を実施し、次のステージに対応できるコミュニケーション能力を育成します。

✿ 校区間連携の充実

西中校区小中学校教職員合同研修会を実施し、校区内小中学校の教職員が相互理解を深め、学習内容の系統性や共通して指導できる項目を確認を行うとともに、西中校区学校運営協議会を開催し、地域も含めて、校区間の相互理解、連携を充実します。